

第1回 徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議 会議録（要旨）案

日 時：令和2年11月5日（木） 10：00～12：10

場 所：ホテル千秋閣 7階 鳳の間

出席者：委員18人、市長、事務局

傍聴者：4人

1 開会

2 市長あいさつ

3 会長・副会長あいさつ

（会長あいさつ）

皆さん、おはようございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

徳島市の基本的な指針等について皆さんのご意見をお伺いするという会議で重役を担わせていただくことに、少し戸惑いもありますが、皆さんのご協力をいただきながら進めて参りたいと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

（副会長あいさつ）

皆さん、おはようございます。この度、副会長に就任させていただきました。

先ほど市長や会長からも挨拶がありましたが、今、世の中は本当に激変しておりまして、変化する世の中で、コロナ後は都市から地方へという流れが必ずやってくると思います。

Society5.0の時代は、仕事をする場所は選ばないけれども、住む場所は自由に選べる、その時に、徳島が選ばれる。そんな徳島の魅力づくりを皆さんと一緒にお話しできればと思いますので、皆様のご意見をよろしくお願ひします。

4 委員紹介

5 議題

（会長）

それでは、皆様ご協力のほどよろしくお願ひいたします。本日の議題は4件用意しております。忌憚のないご意見をいただきたいと思います。まずは事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<議題1～議題3まで資料に基づき説明>

(会長)

ただいま説明のあった将来像、基本目標へのご意見ご感想を含め、今後示される実施計画へも反映できる場もありますので、将来的な方向性といったものも含めてご意見を伺いたいと思います。

まずは、着席順でご意見を伺いたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(委員)

「わくわく実感！水都とくしま」の将来像のように徳島市がなればいいなと思っております。私はイーストとくしまで観光の推進を行っておりますので、そのあたりも含めてお話ができればと思います。

なぜイーストとくしまのようなDMOが全国293法人もできたかという、地方は今地域経済縮小スパイラルという状態に入っていると言われていたからです。縮小スパイラルは人口が減っていくと売り上げが減り、経済が低迷して、企業が撤退し、雇用が悪化して収入が減少し、また人口が減っていくという負のスパイラルです。そこで、外から来る人に消費等の経済的な活動により、地域経済縮小スパイラルを止めていくという組織になります。

例えば、人口から見ると、徳島県では1985年から10万人以上人口が減っています。1人あたり年間127万円程度消費するため、10万人減っているということは、年間1270億円程度の消費が地域経済からなくなっているということになります。

徳島の地域経済を維持していくためには、この地域に落ちるお金を何とか増やしていくことを考えていかないといけないのです。

これは徳島市だけの問題ではなく、経済圏で考えると徳島市内に勤務する人は、近隣市町村を始め徳島市以外に広く多くいらっしゃるの、その圏域で考える必要があると思います。

また、徳島駅は徳島県の交通結節点になっていて、徳島県に来た人は必ず徳島駅を拠点にして動いていくようになっています。徳島市がまず力を入れるべき事柄としては、人が集まるポイントをどう活性化していくかというのが非常に重要です。そのためには、そこを利用している県外の人、例えば徳島駅を、県外から訪れる方がどういう目的を持っていて、どういった要因があれば泊まりたくなるのか、食事をしたくなるのか、あるいは様々なサービスを受けたいのかといった、県外からの訪問者の視点で考えて、そのニーズに合致した商品やサービスを拡充することが必要ではないかと思えます。

これからコロナ禍の中で大きく価値観が変わっていくと言われていますが、これは観光においても当てはまり、今観光庁では新たな指針としてワーケーション¹やブレジャー²といったこと

¹リモートワークを活用し、観光地などで働きながら休暇を取る過ごし方

²出張と休暇を合わせ、業務後等に現地で観光や旅行を楽しむこと

を推進していく方向性が示されています。

また経済波及効果が最も高いといわれているのがDX³（デジタルトランスフォーメーション）です。例えば5GやVRを利用して、現地に行かなくても消費活動が生み出されるといったように新たなビジネスチャンスも生まれてきます。ワーケーション、ブレジャー、DXなどの新たなビジネスチャンスを生かした県内企業の創業の推進や関連企業の誘致などにより、徳島市が新たなものを推進していく自治体になることで「わくわく実感！水都とくしま」が実現できればよいと思います。

（委員）

私は、子ども・子育て支援について研究しているほか、徳島県レクリエーション協会の会長もしておりますので、2つの観点から意見を述べたいと思います。

まず、子ども・子育て支援について。よりよい子育て、いきいきする子どもづくりは大切です。子どもがいきいき育つことが市の活性化につながっていくことは当然のことですし、子ども自身が頑張りたい、自己実現をしたいと思えることが非常に重要です。

それからもう一つのスポーツ・レクリエーションに関しては、ちょうど「政策4」でスポーツ・レクリエーション活動の振興を挙げられています。レクリエーションに求められているものは、“心の元気”です。レクリエーションを通じて、子どもから高齢者、障害者も含めて全ての人の心が元気になる。心が元気になることが体の元気につながる、つまり健康につながるということです。

そのためには、明るく楽しいレクリエーション活動が推進されることがとても大事だと思っています。徳島市にも徳島市レクリエーション協会があるのですが、まだ十分に活動しているとは言いきれないと思っています。ですので、県市のレクリエーション協会が連携をより強くして、大きな活動へつなげていけたら、子どもたち、或いは障害をお持ちの方も、或いは高齢者の方もいきいきと楽しく暮らせる。そういった毎日を楽しめるという構想を、考えていくことも必要だと思っています。

また、まだ案の段階ではございますが、2023年に全国レクリエーション大会を徳島に誘致できないかと考えています。全国からたくさんの方がお越しになるので、実現できれば、徳島市を中心に、市民を巻き込みながら、大きな文化的・スポーツ的なイベントができるのではないかと考えております。そういったことも構想の中を含めつつ、ご協力できればと考えております。以上です。

（委員）

まず資料2ですが、進捗状況、特に指標についてどういった分野でどういった点がどうであったのかなど、もう少し詳しく示していただきたい。

新たな計画を策定するにあたっては、新型コロナウイルスをはじめとした様々な社会状況の

³ IT技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させること

変化が成果指標の実績値にどのような影響を与えているのか、またそれをどう捉えるのかという視点が求められると思います。もう一つは、成果指標を適切に設定できていないために、実態を正しく反映できていない可能性についても、今後の議論になるかと思いますが、明らかにしていただければと思います。

また、現在の計画案を見ていて違和感がありました。

もちろん安全な地域生活というのが必要であることは事実なのですが、何よりも働くことを通じて生活が成り立つわけで、例えば就職をするための支援、あるいは躓いた時のフォローであったり、再就職であったり、新たな職域への転職を図るためのスキルアップなどの部分。そういった部分は人生の大きな位置を占めていると思うので、「施策32」の部分にもう少しボリュームを持たせていただきたい。

例えば若者の中途退職はいまだに改善されていません。国としての施策ももちろんありますが、市としての施策を強化していただきたいと思います。そういったところを感想として申し上げておきます。

(委員)

私は、都市、建築、住まいの観点から話したいと思います。

まず「政策8」内の立地適正化計画ですが、徳島では、津波浸水想定区域を含む計画であり、津波災害においても、既存都市を見捨てない、その後に建て直そうという計画になっています。自分の生命、安全な暮らしを守るという「政策5」の防災・減災対策との連携が最重要になってきます。建築物の耐震化や安全化、避難道路の確保などには引き続き留意いただくよう、よろしく願いいたします。これは水害についても同様の連携が必要です。

また、市の財政状況から、コンパクトシティの推進は避けられない課題なのですが、市街化調整区域の宅地開発は、逆の方向に、ますます増加傾向にあり、これも検討事項の一つだと考えます。

一方で、周知の通り、コンパクトシティの核である、市街地中心部には空き家や空き店舗が目立っており、魅力あるまちの様相ではありません。

空き家については、「政策6」内の、危険な空き家の除去支援について記載されておりますが、立地適正化計画の推進にあたっては、空き家や文化財等、インフラの利活用を是非ともセットで対応していただければと考えます。移住支援の拡充やインバウンドの推進に繋がることを期待できますし、SDGsの理念にも沿うものであると考えます。加えて、市内に数多くある高齢者世帯は、そのまま空き家予備軍となっているのが現状です。高齢者が生涯定住できる住環境について、医療福祉介護の分野の専門家と、建築士会で共同研究を進めており、「政策2」と「政策3」がそのまま空き家を増やさないことにも貢献できると考えています。以上、今回の総合ビジョンの政策や施策が縦割りとならず、幾つものが連携した提案となりますよう、よろしくお願いいたします。

(委員)

色々な政策がある中で、最も重要なのは税収の確保だと思います。税収が無ければ大きな事業や施設整備もできない。人口動態から言って、R27には生産人口が現在の15万から10万に減り、税収も減ってくる。税収を確保できる方策をとるべきだと思います。

増税はできないとして、最も早いのが企業誘致をすればたくさん固定資産税や住民税が入ってきます。津田海岸町に株式会社レノバと地元企業体が一緒になってバイオ発電所の建設にかかっています。バイオ発電は公害が地球規模で考えるとゼロだということで、私も地元で積極的に協力してあげようという運動をしました。

レノバの投資額は380億円と言われてますし、固定資産税だけでも1億円近くになるのではないかと、企業誘致はそれだけメリットがあるのだと思います。それからボイラーでタービンを回すと、徳島市から水を購入することになりますが、それが3000万円から5000万円で購入することになると言われています。

税収だけでなく人も入ってきますし、非常に有効だと思います。徳島市にもまだまだ土地もありますし、企業誘致を前向きに考えていくべきではないかだと思います。企業誘致について市長にも取り組んでいただければと思います。

また、去年今年と四国4県の県都を見て回りましたが、残念ながら徳島市は（商業面で）遅れているのではないかと思います。商業量の問題や、架橋で本州とつながったことによるストロー現象の問題かと思いますが、徳島市がにぎわいを取り戻すためには全国的な規模のイベントを開催するなど、そういったことが地域の活性化につながるのではと思います。一つ一つ言っていけばたくさんあると思いますが、この2点を大きな問題として私は取り上げたいと思います。

また、小さいところですが、施策30の③企業誘致の推進、⑤創業の促進とありますが、これは施策「地域産業の振興」ではないと思うので、別の施策として設定したり、別の施策に入れたりするなどして、これらに力を入れて重点的に取り組むようにしてはどうかと思いました。

(委員)

徳島市地域包括支援センターですが、職員が保健師、社会福祉士、ケアマネージャーの、3職種がそれぞれの専門性を生かしながら地域の高齢者の総合相談窓口となっております。

様々な相談を受ける中で、高齢者の方といっても人生100年時代と言われておまして、70代、80代の方で、とても元気な方もいらっしゃいます。そういった方々を活用するという方向を検討すべきだと思っております。免許は返納したけれどどこかで働きたいという相談を受けます。まだまだ徳島市においてはそういう方々の就労の場所は少ないと感じています。

また、認知症になった方でも働きたいという方もいらっしゃいます。デイサービスの中には野菜の袋詰めで昼食代が無料になるという取組を行っているところがあり、利用者の方は積極的に行っているようです。収入というほどのものではありませんが、何かしら報酬があれば、高齢者の方というのはすごく力を発揮してくださるのではないかなと感じています。

女性の方は集いの場に集まって体操を行うなど活動をされていますが、男性の方は、仕事で培った能力を発揮できる就労の場があれば、高齢者の方が活躍できるのではないかなと思ってい

ます。

認知症におきましては、成年後見制度の促進などと言われておりまして、徳島市においても中核機関を早く設置していただいて、相談できる場所があればいいと思っております。

(委員)

健康について、おそらく皆さんご存知かと思いますが、徳島県には大きな特徴があつて、徳島市もその1/3の人口なので恐らく同様だと思いますが、生活習慣病が多いことと、それに関連する死亡が多いことです。これについての指標などは、現在の総合ビジョンにおける指標が一つずつどうだったのかは事前に見たかったなと思います、次回検討していただければと思います。

生活習慣病に関してですが、原因は2つ、太っている方が多いことと、たばこです。

太っている原因については、おいしいものがたくさんあるので、そのせいでたくさん食べる文化ができてしまっていること、それから公共交通機関が少ないので歩かないこと、そういった環境が原因かと思えます。私は生活習慣に関連する色々なグループに入っているのですが、長年取り組んでいて、徳島の文化と戦っているようで少しくじけております。

徳島は、子どもの時から太い傾向にあり、西日本で一番子どもが太いのは徳島です。それがずっと続いているのは、何も改善できていないということ。ですから、子どもの時から、或いは妊産婦の時から食事に対しての正しい知識を持つ、健康リテラシーをもう少し高く持ってもらうための方策を政策の中に入れていってほしいと思います。

たばこに関しては、国民生活基礎調査の喫煙率では特に高い県としては出てこないと思いますが、実際COPD⁴の死亡率は全国トップクラスである背景には、やはり喫煙習慣のある方が多いということだと思います。だからそれに対して、できるだけ禁煙を進めていくという施策を積極的に入れていただきたいと強く希望します。

(委員)

働きながら子育てをしているワーキングマザーとして、子どもたちの未来のことを考えながら、資料を見させていただきました。

まず教育という面で、誰一人取り残さないという基本目標を掲げて、いろいろな施策に取り組まれていくことについて非常に嬉しく思っており、ハード面の環境を整備するというのは大前提としてあると思うのですが、やはりソフト面で徳島市の魅力を、子どものころから感じられるように推進していただきたい。生まれてから死ぬまで、より長い時間、徳島市を愛して暮らしてもらいたいし、私自身Uターン者なので、一度外へ出ても戻ってきて欲しいと思います。

具体的などころでは、まず文化面の強化です。阿波おどりだけでなく、徳島には文化遺産がたくさんあることを、先生たちも自信をもって子どもたちに伝えていただきたいと思えますし、そのような教育を受けた子どもたちは徳島市に誇りをもって、自信を持って、他県の皆さんにも発信してってくれる人材に育つのではないかと思います。また、文化面だけでなく、例えば自然

⁴ 慢性閉塞性肺疾患のこと。喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病。

環境について、吉野川や新町川などの河川も、城山も眉山などの緑もある、水と緑に囲まれた市街地はなかなか少ない環境ではないかなと思います。現状では当たり前の景色になってしまっているところがあると思うので、そういった面を魅力の一つと捉えて、より身近に感じられる仕組みづくりができればと思います。導線などはハードで整備していく必要があるかと思いますが、まずは自分たちが徳島市に魅力を感じる、誇りに思える、夢を描ける教育を具体的に推進していただきたい。

もう一つは防災の面で、振り返りでも順調に進捗しているという記述がありましたが、防災というのはハードだけでは、乗り越えられない。ソフト面も大事なことがあると思います。

徳島に暮らす一人一人が地元のことをよく知って、どういう備えが必要なのかを学びなおせるような、教育はもちろんです、私たち大人たちも学べる機会が、今後必要になってくるのではないかなと感じております。

例えば、子どもたちが学ぶ機会に、私たち大人たちも参加し、地域やコミュニティで防災訓練を実施していく。それが限られた学校だけでやっているという状況では何の解決にも至らないと思うので、そういったところも具体的に施策に盛り込んで、教育と、防災、そして地域との繋がりと、実現していける未来があれば素晴らしいことではないかと思います。この2点について私はぜひ盛り込んでいただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。半数の方々にご意見をいただきましたので、これから市長にご意見をいただこうとおもいますが、その前に事務局から現在までのことで答えられることがあれば補足をお願いします。

(事務局)

振り返りについては、新たな総合計画を策定するうえで、大まかなところでの整理について、ご報告いたしました。ご意見のあった点について可能な部分について、次回にお示しできるように検討させていただきます。

(会長)

それでは、市長から前半のご意見を踏まえて何かありましたらお願いします。

(市長)

では、お一人ずつお話をさせていただきます。

観光や地域経済の話が色々出ましたが、私も同じような考えで、徳島駅は交通のハブという点についても、まさにその通りだと思っています。国からワーケーションという話が出ていますが、徳島駅の近くでSUPができたり、釣りができたり、サーフィンができたり、コンパクトに遊びがまとまっているうえ、アミコビル9階にTIBさんと徳島市のコワーキングスペースもありますので、徳島市ではライトな遊びをしながらワーケーションをして、ディープな遊びをしたければ県

南のサーフィンや県西のラフティングをしたりといった、徳島県のハブになれるような徳島市でありたいと個人的には思っています。

レクリエーションの話、子ども・子育ての話をいただきましたが、色々な多様性を持った方々が楽しく人生を生きられたらと思っています。レクリエーションについては、やはり子どもや障害者、高齢者の方々が一緒になって遊べるような場になれば、多世代の交流にもなりますし、私は本当に推進していくべきだと思っています。また、全国レクリエーション大会の誘致を考えてくださっているとのこと、本当にありがとうございます。県の観光協会さんもコンベンションの誘致など、一生懸命にされていますし、DMOも頑張っていますので、ぜひ徳島に呼んでいただけるようお願いいたします。

労働者福祉の観点からご意見いただきました。働くことが人生の大半を占めるというお話はまさにその通りだと思っています。指標として、施策としてももう少し厚みを持たせるといった部分についても検討させていただきたいと思っておりますし、行政の方でも例えば就職が困難な世代の方の支援などが全国的に行われている部分ではあります。そういった部分でも、行政で何ができるかを総合ビジョンとはまた別の部分で考えていければと思っています。

都市計画や津波、市街化調整区域の話など、色々なお話いただきましたが、先週、実は国土交通省に行き、流域治水などについて話してきました。やはり防災、まちづくり、都市計画の観点というのは非常に重要だと思いますし、ハード整備と空き家対策は連動する部分だと思っていますので、建築士さんが持っている知見を生かしながら進めていきたいと思っております。また、地域福祉の部分で、医療・福祉・介護の専門家と建築士会で研究されているということでしたので、また市にもフィードバックしていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

企業誘致のお話を頂きました。これに関しても県市協調で、知事と一緒にできる限り取り組みたいと思っておりますし、環境への配慮などについてはSDGSの観点からも徳島市の方向性と合致いたします。そういった部分でも取り組んでいけたらと思っております。また、徳島市が遅れているというご指摘もいただきました。大きなイベントという部分についても県の観光協会などと一緒に誘致をしていければと思います。ちなみに、2022年に四国の総体が徳島を中心にありますが、宿泊施設や会場施設など、ハード面についても課題がありますので、そういった面についても並行して考えていかなければいけないと考えています。

地域包括支援センターの観点からご意見いただきました。アクティブシニアについての言葉がありました。私の祖母も今年、96歳で亡くなりましたが、70代・80代の頃は本当に元気で、野菜づくりなどをしていました。人生100年時代を見据えると、免許返納後も就労したいというのは至極当たり前のことだと思います。これからの人口バランスを考えていくと、人口減少の中で高齢者の方が戦力となって働けるような環境など、障害者の方も含めて、多様な方がいかに就労していけるかを考えることが必要な時代になっていると思っております。この前も、B型の就労支援施設などがオープンしていますが、若い人がそういう施設をつくったり、色々な人が働きやすい環境を整備したりして、一生働けるような、また楽しんで働けるような時代になっていくことが重要であると思っております。やはり市長としては、皆さんにタックスペイヤーになっていただければと思います。本当に厳しい財政状況もありますので、税金を払うという部分だけでなく、福祉の部

分で市が補助をせずとも、それぞれが働きながら少しずつ負担するような形で市政が進んでいけたらベストなことではないかと思うので、そういった部分への支援に関しても考えていきたいと思います。

生活習慣病の話などをいただきました。衝撃だったのが、子どもが西日本で一番太いというお話がありましたので、そういった部分を本当に子どもの時から改善というか、お話していかないといけないと思いましたし、健康リテラシーという言葉のとおり、親が妊娠期からきちんとそういった部分を意識して生活することが大事ではないかと思いました。おいしい徳島の野菜を食べてみんなで健康になるということが大事だと思っていますので、そういったことを私も含めて発信をしていければと思います。

教育と防災の面についてソフト面の話がでていました。先日、市立高校の生徒と話をする中でも、徳島に魅力がないという話が出ました。私自身も徳島には本当に何もないと思って出ていった人間ですが、出ていったからこそわかる魅力もありますし、出ていくこと自体が悪いとは思っていません。でも、出ていった時に、徳島って実はよかったんだなと思える教育が、徳島市でできていたかどうか、重要だと思っていますので、そういった部分について、小中高を通してできればいいなと思います。自然をより身近に感じられるような教育というお話もありましたけれども、今コロナ禍の中で、実はハゼ釣り大会が非常に盛況で、定員を超える程ですので、そういったコロナ禍の中でもできることを続けていって、子どもたちが楽しめる徳島市をつくりたいと思います。防災の面でも、一人一人が自ら行動できるような意識の醸成をしていきたいと思っています。他都市では、例えば行動経済学に基づいて、どのようにするとみんなが逃げるか、といった部分を研究している都市もありますし、そういった部分を徳島市も見習わなければいけないと思います。また、防災士としての知見を教えていただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。それでは引き続きまして、委員の皆様からご意見を伺いたと思います。

(委員)

私はいつも徳島駅前の国道に花を植えて、毎日世話をする活動をボランティアでしています。毎日花の世話をしながら、今回の会議のように、10年後の徳島をどうしていけばいいのか、まちが元気になるというのはどういうことかと考えています。

花の世話に外国人がよく一緒に活動してくださっています。本当であれば町内で世話ができればいいのですが、7年前から外国人ボランティアを呼ぶようになり、今では年間200人ぐらいが30か国からやってきて、地域づくりに携わってくれています。大体3ヵ月～半年活動してくれませんが、地面にへばり付いて花の世話をしているうちに、徳島市のことが大好きになってくれます。滞在中の日常生活を徳島人と同じようにしていくうちに、どんどん徳島のが大好きになる。当然帰国しないといけないのですが、帰国した後もSNSなどで繋がって連絡をどんどんとっている。これはもう何百人になり何千人になり、とってその後も増えています。

こういった会議等では一番初めに人口の話が常に出てきます。これは10年で人口が1万5千人ぐらい減るとい話ですが、私は1万5千人ぐらいであれば増やせるのではないかと考えています。

徳島のこと大好きな人を増やすことが地域の活動でできると確信しており、市外の人に徳島市のことを好きになってもらうという方法があると思っています。今年はコロナ禍で外国人は出入りできなくなりましたが、相変わらずネットで活動について見てくれて、プロジェクトに参加したいというオファーもあります。

結局、徳島市内でできないことは外と連携して、外の徳島人とつながっていくこと。もちろん結婚や就職で徳島とつながることもあると思いますが、このようなつながりもあるのだと思い始めました。リモートも一般的になってきて、ネットでつながっている人も市民と考えていいのではと考えています。

徳島市に家があり、住民票を置き、税金を払うというのも、これから10年で変わっていくのではないかと。

世界中にいる人たちが、毎日徳島の情報を見て、発言なり活動なりしてくれる。そういう子らを増やしていく。観光でもリモートの観光が流行りだしましたが、そういうことが市民という概念においてもこれから10年で起こっていくのではないかと、外国人ボランティアとのつながりを通じて感じています。

リアルな繋がりが不要ということではなく、実際に徳島へ来た時には徳島でしか味わえない体験をします。そういったリアルなところと、それから思いのところが十年間でどういう風な市になっていくか、当然若者であれば何もないので出ていきたいと思う。大事なことは、いつかは帰ってきたいと思ってもらうこと。

企業についてもそうで、経済活動の面を重視すれば、やはり都会へ行くほうが良い。しかしやはり徳島にあたたかみや楽しさを感じてもらい、何かしらの形でつながってもらうというのを政策に盛り込んでいってもらいたい。

また、民間が行う場合でも、分かりやすいところで阿波踊りを通じて外の徳島人とつながりを持つような部分を行政がサポートするようなことができないかなと普段NPOとして活動しながら考えています。

少し真面目な話になると財政が、人口が、どんどん苦しくなっていますが、この「わくわく実感！」という言葉が、各分野でどのように実現されるのか。私は本業としてチュロス屋をしていますが、中高生のころ来てくれていた子が、帰省するときにまた店に入ってきてくれる。そういったことをまちごとできるような温かいまちにしてほしい。

(委員)

障害者会を代表して意見を申し上げたいと思います。2010年のバンクーバーパラリンピックの際、車椅子の前市長サム・サリバンさんが、「多くの人は市長が障害者だから、町のバリアフリーが進んだと思っているが、事実は逆。町のバリアフリーが発展していたから、私が市長を務められた」と言ったそうです。

私はこの話が非常に心に残りました。バリアフリーと言っても、物理的、制度的、文化情報面、それから意識面のバリアフリーと様々な形があり、それらのバリアフリーが進んでいけば、障害者だけでなくいろんな人にとって、住みやすい魅力のある町になるのではとっております。

旅行会社のじゃらんが、旅行のバリアフリー対応に関してアンケートを実施しています。それによると、足腰に不安を抱えている人の92%が旅行をしたいが、その約半数が旅行をあきらめているという結果が出たそうです。自身の体調を除けば、目的地までの移動、観光地のバリアフリー対応などが原因として挙げられていました。また、2015年のリュウマチ白書によると、リュウマチ患者が最もしたいことが旅行となっています。体が不自由であっても旅行したいという欲求は非常に強いことがわかります。

今回の施策を見ると、バリアフリーという単語は出てきていませんが、縦割りではなく、これを貫く横串のように各施策の根底にバリアフリーを置けばと私は思っております。

新しいまちづくりによって徳島市がバリアフリーの先進地であると人々に知れ渡れば、多くの人に徳島市へ行けば自由に遊べ、行動できるのではないかと考えていただけるのではないかと、また、バリアフリーの勉強をするならば徳島市を見るべき、となっていくのではないかと考えています。

観光というと阿波踊りや自然、滝など、見るものが観光資源と思われがちですが、あそこへ行けば楽に旅行ができ、私でもおいしい健康的なものが食べられる、というバリアフリーの観点からも観光資源の開発があり得るのではないのでしょうか。ハード面の観光資源は創り出しにくいですが、ソフト面の観光資源は今からでもやっていけるのではないかとということで、バリアフリーを一つのキーワードとして新しいまちづくりを考えていけばどうかと思っています。

(委員)

Codeforは技術で社会課題を解決するシビックテックと呼ばれるものを推進する団体であり、IT技術の専門家として、この場に呼ばれていると思いますので、その面から意見させていただきます。ITはツールですので、すべての施策に対して有効だと思います。

ただ、行政が外部のコンサルタントや国から派遣される専門家を使う場合、現場がわからず提案の筋が悪い、自分たちの利益を優先してしまう、ということがあると聞いています。

ITの導入等を検討する場合、徳島市の内部にいて、現場を横断的に知っていて、かつ、ITにも詳しい人材がいるのが、ベストです。一番良い形としては東京都の副知事に元ヤフーの社長が入っている例がありますが、おそらく徳島市にそういった方が来てくれることはないと思います。実際に阿南市でそれなりの報酬でICT推進のためにIT人材を募集されていましたが、採用には至らなかったそうです。その後、Codefor Japanという民間と行政を繋いで相互で人材を交流させてお互い良いものにしましょうという社団法人がありますが、そこに市長が相談されているそうです。徳島市もICTを推進して施策を推進するために、そういったところに相談されてはどうかと思います。もし必要であれば、ご紹介します。私はあくまでボランティアですので、気軽にご相談ください。行政が何かする場合、よく県内・市内で人材や企業を求めますが、県内では私を含めて幅広い知識と経験が足りないの、やはり外部から呼んだほうが良いかと思いま

す。

優秀なIT人材には、高額な報酬を出した場合においても元は取れると思います。例えば、行政が何かを開発する場合に、外部のITベンダーに発注する場合、現場及びITに詳しい人が発注をすれば、非常に的確な仕様がでて、見積もりも適切なものにできます。職員の教育もついでに行えれば、職員でも簡単なツールの導入ができるようになり、外部に発注すれば100万円程度の簡単なものは内部でできるようになります。教育も外部に発注となるとかなりの費用がかかりますが、職員同士の自走化も考えられます。費用対効果は非常に大きいと思います。

また技術導入にあたり、流行しているシェアリングエコノミーやAIなど派手なものを導入しがちですが、現場に寄り添って目の前の課題を解決する、といった導入の仕方をしていくのが良いと思います。実務のコストを下げて余力がうまれば、人間にしかできないことに集中でき、様々な施策についてもより良い取組ができるようになると思っています。

(委員)

アンケート結果にもありますように、徳島市の皆様が望んでいる活力ある、明るく元気なまちづくりは、まさに弊社の使命でもあると思っています。

昨今、若者の人口流出が大変、大きな問題となっていると思います。10数年前の古い話で恐縮ですが、ある中都市のJ1で戦っていたクラブさんが、リーグ戦の順位が高い年には、人口の流出が例年よりも緩やかになったという事例があります。偶然かもしれませんが、弊社もそういった一助になればと感じております。

ただ、結果を残せばいいというわけではないと思っています。勝負事ですので、負けた時には人が離れてしまいがちです。そうならないよう、例えば徳島市とのホームタウン活動などの地道な活動を行っており、これについても掲げられている基本目標達成の一助になるのではないかと考えております。

ホームタウン活動では、大きなところでは選手たちが毎年阿波おどりに参加していますし、小さなところでは選手が学校や介護施設へ訪問するなどしていますが、弊社をうまく活用していただければと思います。

また、若者のアンケート結果にもありますが、観光の面でも活力を与えていきたいと思っています。昨日の試合では、コロナ禍の平日夜にも関わらず、静岡県から150人ほどのお客様に来ていただきました。また、J1のころには一部のクラブとの試合では県外から数千人の来場をいただき、そのほとんどが徳島市に宿泊して、飲食をされたという実績があります。ですので、そういった方達への、おもてなしのシステム構築について検討してほしいと思います。サポーターによるSNSの発信能力は非常に高いものがあると感じており、他県への徳島市魅力発信にもつながるのではないかと思います。

(委員)

基本目標1の「誰一人取り残さない」、これはSDGsの理念でもありますが、まさに社会福祉協議会が目指してきたものです。政策3の「誰もが自分らしく安心して暮らせる共生社会を実現す

るまちづくり」も多様な主体と連携し、地域共生社会の実現を目指す社会福祉協議会の活動と共通しています。一方で、徳島市は人口減少の加速や少子高齢化の進行で大変財政状況も苦しくなる中、福祉分野としては、生活支援体制整備事業など、既存の事業を生かしたような取組をしてはと思います。

誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために各地域で自分のことを実行すること、身近な地域で自分たちができることを考え、行動に移せるような取組を暮らしの中で誰もが取り組めるような協働と連携をした持続可能な共に生きる豊かな地域づくりができたらと思っております。社会福祉協議会では、災害時には災害ボランティアセンターを設置することとなっています。こちらもちまちづくり、地域づくりと連携するものであり、こういった連携を大事にしていけたらなと思っております。

また、子育て中の一人の母親としては、住みたい、住み続けたい、県外に進学したとしても魅力的な企業があり、徳島に戻って働きたい、子育てしたいと思えるような徳島市であってほしいと思っております。

(委員)

2点お話をさせていただきたいと思えます。子育て支援スペースすきっぷを運営して18年になります。すきっぷは、子育て支援はもちろん、中心商店街を活性化するためにオープンしました。以前からダイエー閉店時にも人出の減少等はありませんでしたが、コロナ禍の影響で、すきっぷ周辺だけで5店舗が閉店しました。特に、周辺で唯一あったスーパーが閉店してからは夜8時・9時には物音ひとつ聞こえないような寂れ方です。すきっぷやもっくといった施設を目的に来られる方は増加傾向にあります。施設は耐震化の問題もありますし、台風が来ればアーケードが雨漏りし、天板が落ちてきます。また、人が少ないからと自動車・自転車が減速せずに通過するなど、非常に厳しい状況となっています。商店街の活性化のために、すきっぷを運営していますが、自分たちだけではどうにもできなくなっているのかなという気がしています。それでも助けを求める利用者の方もおられますし、県外から来た方は、徳島市は子育て支援が充実していて面白いと言ってくれます。徳島市の魅力度が少しでも上がるように、徳島市が魅力ある楽しい町なんだと発信していこうとスタッフミーティングの度に言っています。

2点目としては、私たちも子育てママパパ、子育て家庭を孤立させないよう取り組んでおりますが、「基本目標1」のところで、利用者支援事業の特定型として徳島市子ども施設課に保育コンシェルジュが配置され、母子保健型として保健センターにひまわりっこができましたが、大事な基本型の利用者支援事業がありません。これは地域子育て支援拠点事業で身近な場所で子育ての施策につなげていく、それから地域連携を図るというものですが、徳島市だけでなく徳島県にありません。基本型を開始し、現場のことを知っている特定型、母子保健型、基本型の関係者が定期的に会うことで現場の声が届くと考えております。

基本型の開始が財政的に難しいというのであれば、お金のかからない方法、ソフト面の取組として、在宅育児家庭相談室、親子ふれあいプラザ、子育て安心ステーション、助任中四認定こども園、すきっぷ、利用者支援事業、ファミリーサポートセンター、要対協関係者が何かあればす

ぐにつながれるよう、普段からやり取りを行える会議を早急に立ち上げていただきたい。普段から現場同士でやり取りを行い、私たちに何ができるかということも考え、さらに魅力度のある子育て支援のまちにしていきたいと思います。

(委員)

文化はわくわくするためには本当に欠かせないものだと思います。これは今年のコロナ禍で実感したことですが、文化は平和な状態で無ければ発展しない、戦時下など世の中が不安定な状態では文化は置いて行かれると言われていました。

もちろん人命が大事なのですが、一方で、精神面において文化芸術的なものがなければ、気持ちがちがどんどん荒んでいってしまいます。改めて、人間として生きていくために文化は必要なのだと実感する半年でもありました。

私は徳島県邦楽協会の会長もやらせていただいておりますが、日本の伝統音楽はあまり功利的なものでないことが多いです。江戸時代からの流れをそのまま、伝承方法も大事に受け継がれてきています。今この時代に即したのものへ変えていかなければいけないのではないかという話もよく議論されますが、一見無駄だと思われるものの中に、培われていくものがあると思います。そういうものは、なかなかお金になりませんが、切り捨ててしまうのではなく、やはりつなげていってほしいと思います。

阿波おどり以外にも徳島市の伝統文化と言われているものが色々あります。そういったものの中に脈々と培われてきたその地域で育った誇りが絶対にあると思います。財政難で大変なことはわかりますが、支援の手を絶やさず文化を残していただければと思います。

また、新ホールについて、文化関係、音楽関係、芸術関係の人たちは本当にホールを心待ちにしています。動き始めたものは止めずお願いします。

計画全体について、わくわくという大きなテーマはありますが、分野ごとの縦割りでなく、一つのストーリーを作り、どの分野においてもその雰囲気を感じられるようにしていただきたい。具体的な話ではないのですが、一つ一つのことが充実しているだけでなく、横の繋がりで一体化が生まれ、全てのものが連動すると思うので、そういった観点からのまちづくりをお願いできたらと思います。

(委員)

コロナ禍で農業も大きな打撃を受けました。スダチに関しては関東の料亭などへの出荷量が6割～7割減少しました。結婚式などのイベントもなくなり、生花、花卉、蘭などは9割近く減少しています。生活に無くては困らなかつたと思われないう、徳島市で農産物のPRをしていただけたらと思います。

今、農業の一番の問題は、農業者の高齢化による就農者の減少であると思っています。新規就農者や担い手への支援があれば雇用にもつながりますし、農作業には短時間や期間限定の作業も多いので、そこへ高齢者や育児中の方を上手にマッチングできれば雇用にもつながり、活性化にもつながるのではと考えています。

もう一つ、これは企業としてですが、中小企業は今、新規採用にすごく苦勞しているところが多いと思います。新規採用やUターン者で県外から徳島に就職したいという方はある程度潜在していると思いますので、そういった方に家賃や住居の斡旋なんかもしていただければ、徳島で働くきっかけになるかと思います。

(副会長)

基本構想はきれいにまとめていただけていますが、徳島市をそのまま別の自治体に置き換えてもいいぐらいに一般名詞が多いことが気になります。最初にも言いましたが、徳島にしかない強みを伸ばせるような目標が重要だと思います。

基本目標4の活力あふれるまちとくしまの創造について、徳島県の魅力度が46位というのが出たばかりで、私もショックを受けていますが、徳島にしかないもの、強みはたくさんあると思います。あとは中心市街地の活性化、要するにコンパクトシティ化をしっかり進めるということだと思いますが、私はすごく力を入れてほしいと思っています。仕事柄全国ほとんどの町に行ったことがあります、このように素晴らしい環境は徳島にしかありません。眉山があつて、新町川があつて、そして駅があつて、全部歩ける距離です。その北には中央公園があつて、そしてまた新ホールが。歩ける範囲で自然が豊かで、ここに私は住んでみたいと感じますので、コンパクトシティを進める時に、一般的な言葉を使うのではなく、具体的に、5年後、10年後、20年後、この部分は藍染めのショップが並ぶ、など、まちの絵を描いていただくか、模型を作っていて、何年後、何年後と具体的に少しずつ進めていただきたいと思います。徳島に住みたいというまちづくりをお願いしたいと思います。そういった場所に自分も住みたいと思います。

もう一つは、阿波女をブランド化し、強みとして生かしてほしいということです。阿波女あきんど塾も徳島市で25年近くになりますが、本日の会議の場も半分以上が女性です。女性がいきいきと、働かなければいけないのではなく、働きたいから働いている。女性活躍というとこれも一般的になってしまいましたが、阿波女になるために徳島にやってきたい、それに男性もついてくる、そういう風に阿波女を是非ブランド化して、全国から住んでみたいまちとして、わくわくするようなまちになってほしいと思いました。

(会長)

予定の時間を大分超過してしまいましたが、最後に市長から何かあればお願いしたいと思います。

(市長)

皆さん本当にありがとうございました。本来であれば、お一人お一人にコメントをしたいことがたくさんあります。私もまちづくりについては商店街、文化、スポーツと本当に言いたいことがたくさんありますし、皆さん方も言い足りないご意見がたくさんあったことと思います。言い足りなかったことは会議後でも事務局の方に、お手紙でもメールでも何でもいいので、ご意見いた

できればと思います。

「わくわく実感！水都とくしま」を掲げ総合計画を策定していきますが、次回また会議を開催しますので、この会議の内容以外でも何か気づいたことがあればまたおっしゃっていただければと思います。

徳島市長として徳島を、わくわくするまちに本当に変えていけたらと心の底から思っておりますので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(会長)

事務局から何かありましたらお願いします。

(事務局)

本日の会議内容について、事務局で会議録案を作成し、近日中にお送りします。お手数ではございますが、ご自身の発言部分につきまして、ご確認いただきますようお願いいたします。また、今後のスケジュールでございますが、第2回徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議を年明けに開催させていただく予定です。後日、日程調整などをさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

(会長)

では最後に私から反省も込めて一言だけ。私は、以前市役所に勤めていて、公平に公正に身の丈に応じたことを行わなければならないと思っていました。

先日、徳島の魅力度の話が出た際に学生から「身の丈にあったことをやっていればずっと46番ですよ、この分野だけは絶対に負けないとか、この分野だけは恥ずかしくないぞという尖った部分が必要ではないか」と言われました。それはその通りだと思いました。

新ホールについて、2000人規模という全国に誇れるものができるのではないかと、魅力度はそういったところから出てくるのではないかと思います。期待していますので、よろしくお願いいたします。

それでは、長時間にわたりまして、皆様方、どうもありがとうございました。

6 開会